

学校テーマ 21世紀をたくましく生きる子どもの育成

～三春町に暮らす子どもならではの、持続可能な放射線教育～

I はじめに

1 本校の概要

本校は東京電力福島第一原子力発電所より、西に直線距離約48kmに位置している。2011年3月11日、東日本大震災時には、そのさらに西側に位置する郡山市より地震震度は小さく（郡山市開成6弱に対し、三春町大町5強）、町内の建造物や家屋被害も郡山市より小さかった。空間放射線量についても、震災当時から三春町全体で避難を指示されるほどの高い線量は記録されておらず、県内外へ避難した町民は一部にとどまると聞く。その一方で三春町は、避難を余儀なくされた浜通りの町村から一時避難場所として数多くの避難者を受け入れ、町内各箇所に仮設住宅を設置した。現在では三春町に住所を移し、第二の故郷として人生を歩まれている方々も少なくない。令和元年度現在、避難者として本校に在籍している児童は12名おり、前述のように住所を三春町に移した方々の人数を含めれば、その数はさらに増える。震災直後の平成23年度、三春小学校においては行政や町民から多くの協力もあり、例年通りの日程で始業式・入学式が挙行され、その次の日には給食までも通常通り再開することができた。その後、夏休み前まで屋外での活動時間が制限されたが、日々の教育活動に対し教員がきめ細かな配慮や工夫を施したので、子どもたちは毎日充実した学校生活を送ることができた。

2 学校テーマに込めた思い

福島県に生まれ育った子どもにとって、放射線教育は必要不可欠な学習内容であると捉える。未曾有の自然災害による被害は言葉では言い尽くせないほど大きかったが、そのような中でも、震災当時、知識や経験が不足していたことが風評被害などによる大きな不安につながってしまったことは否めない。

これからの未来を拓く子どもたちには、予測が難しい時代であっても一步一步確実に歩み、困難に対してもたくましく乗り越えることができるように、自ら考え、判断し、行動することができる力を身に付けさせたい。そこで、今後も放射線教育が持続的に必要になることを踏まえつつ、学校テーマにおいて育てたい子ども像を明確にした。

3 研究の概要（令和元年度の取組）

（1）確かな放射線教育のために

全学年において学級活動の年間35時間のうち2時間を放射線に関する「確かな知識の定着」の時間と位置付け、第1学年から2時間ずつの学びの時間をつくり、6年にわたって継続して実践していく。発達段階に応じて、第1学年から第6学年まで系統立った指導計画に基づく放射線教育を展開することとした。また、第5学年の総合的な学習の時間における学年テーマ「みんなの福島を守ろう」（環境教育）（36時間）の中では、問題解決的な学習に取り組む。

それぞれの授業づくりにおいては、専門家や施設の協力を得ることで、意欲的に取り組める教材や、ゲストティーチャーとのチーム・ティーチングも取り入れ、児童の意欲を引き出す学習活動が展開できるようにする。

(2) 教材の価値

児童が学ぶ放射線等についての「知識・技能」は、正確なものであることが求められることから、国及び県の資料に基づいた指導計画により、指導を行うものとした。国の資料としては、文部科学省が平成30年9月に作成した「小学生のための放射線副読本」を用いた。一方、福島県教育委員会では、地域の状況や児童生徒の実態に応じた独自の放射線教育・防災教育が展開されており、平成23年度からは「放射線等に関する指導資料」として、平成25年度からは「防災教育指導資料」として、実践が蓄積されている。さらに平成31年3月に同教育委員会が作成した「ふくしま放射線・防災教育実践事例集」では、平成30年度の最新の実践事例とともに、福島県における放射線等に関する学習内容が、網羅的に整理されていることから、「小学生のための放射線副読本」の内容と併せて、指導計画に反映させた。

(3) 指導の手立て

○カリキュラム・マネジメント

放射線教育が教科等横断的な取組となること、学級活動により児童自らの発信を重視するものとするものの2つの観点から、カリキュラム・マネジメントを意識した指導計画を作成した。

第1には指導計画を、教科等横断的なものとする中で、探究的な取組となることを意図した。「Ⅱ研究の実際について」の「実践2」で示す第5学年では、社会科において、米作りについて学ぶ過程で、米の全量全袋検査の検査済ラベルについて疑問を持ったことをきっかけとして、総合的な学習の時間における学年テーマ「みんなの福島を守ろう！」の中で問題解決的な学習に取り組み、特別活動における学校行事（学習発表会）を活用し、その学びの集大成として発信した。

第2には、特別活動における学級活動を取組の中心とすることで、児童自らが発信する機会を多く設定した。例えば、「実践1」で示す第1学年では、学んだ内容を他者に伝える手紙を書くといった活動を取り入れ、児童の積極的な発信を促した。また、先に示した第5学年は、学習発表会を含むそれまでの学びを整理し、これからの社会のために何ができるかについて発信した。

○ひと・もの・こととのかかわり

専門家や各種施設といった関係機関等とも積極的に連携する取組を積極的に取り入れた。そのことによって、放射線に関する実験や教材等、学校単独では困難な取組も実現できた。

関係機関等との協力により、専門家等の外部との接点も生まれた。児童同士の相互作用に加え、他者との関わりの中で学びを発信する場にもなり、社会に開かれた教育課程としての具体的な姿となった。たとえば先にも述べた第1学年の手紙は両親に向け、第5学年はそれまでの学びを支えてきた専門家等の関係者を念頭にそれぞれ発信することで、社会とのつながりを意識した取組となった。

■国及び県の資料に基づく放射線教育指導計画

●…学級活動 ○…教科等

学年	小学生のための放射線副読本	ふくしま放射線教育・防災教育実践事例集	学級活動 題材名
1年	放射線、放射性物質、放射能の違いは？ 放射線は身の回りにあるの？ 事故のときに放射線や放射性物質から身を守るには？	<ul style="list-style-type: none"> ● 放射線、放射性物質の存在を知る。 ● 身の回りや自然界の放射線を知る。 ● 放射性物質が一度に大量に放出された場合の避難の仕方を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 放射線ってなあに？ ● 放射線から自分を守ろう
2年	放射線について知ろう 放射線は身の回りにあるの？ 事故のときに放射線や放射性物質から身を守るには？	<ul style="list-style-type: none"> ● 放射線、放射性物質の存在を知る。 ● 身の回りや自然界の放射線を知る。 ● 放射性物質が一度に大量に放出された場合の避難の仕方を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 放射線ってなあに？ ● 放射線から身を守る方法
3年	放射線について知ろう 放射線、放射性物質、放射能の違いは？ 放射線は身の回りにあるの？ 事故のときに放射線や放射性物質から身を守るには？ 食べ物の安全性	<ul style="list-style-type: none"> ● 放射線、放射性物質の存在を知る。 ● 放射線と放射能、放射性物質の違いを知る。 ● 身の回りや自然界の放射線を知る。 ● 外部被ばくや内部被ばくをしないための生活の仕方を知る。 ● 食物と放射線の関係について知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 放射線の正体を知ろう ● 放射線と食べ物
4年	放射線の性質は？ 放射線・放射能の単位 事故のときに放射線や放射性物質から身を守るには？	<ul style="list-style-type: none"> ● 放射線の透過性について知る。 ● 放射線の単位、測り方を知る。 ● 外部被ばくや内部被ばくをしないための生活の仕方を知る。 ● 外部被ばくや内部被ばくの影響について知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 放射線と安全な生活 ● 外部・内部被ばくをしないために
5年	放射線の性質は？ 放射線・放射能の単位 放射線はどんなことに使われているの？ 原子力発電所の事故と復興のあゆみ 体に受ける放射線の量の健康への影響は？ 事故のときに放射線や放射性物質から身を守るには？ 食べ物の安全性	<ul style="list-style-type: none"> ● 放射線の透過性について知る。 ● 放射線の単位、測り方を知る。 ● 放射線の種類・性質を知る。 ○ 放射線の利用について知る。(総合的な学習) ○ 東日本大震災と原子力災害の概要を知る。(総合的な学習) ● 放射線の人体に対する影響について知る。 ● 情報の収集の仕方を知る。 ○ 食物と放射線の関係について知る。(総合的な学習) 	<ul style="list-style-type: none"> ● 放射線の正しい知識を身につけよう ● 放射線の人体への影響
6年	原子力発電所の事故と復興のあゆみ 未来へ向けて	<ul style="list-style-type: none"> ● 東日本大震災と原子力災害の概要を知る。 ● 除染の意味を知る。 ● 東京電力福島第一原子力発電所の廃炉等の現状を知る。 ● 復興に向けた取組の現状を知る。 ● 心身共に健康に生活する仕方を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 放射線と私たちの生活 ● 放射線とこれからの生活

II 研究の実際について

実践1 学級活動における実践（第1学年）

目標	放射線とはどのようなものなのかを知り、自分の身の回りには放射線があることや放射線の性質について理解することができる。		
観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	放射線は目に見えないこと、目には見えないが自分の周りにあることなどが分かる。	ゲストティーチャーの話から、放射線が自分の周りであることに気付くことができる。	放射線について分かったことを、身近な人に伝えようとしている。

(1) 本時の授業テーマ

絵本による説明や、ゲストティーチャーの話を聞くことにより、放射線が身の周りであることに気づき、放射線についての基礎的な内容を理解することができる授業

(2) 本時の題材名 「ほうしゃせんについてしよう」

(3) 本時のねらい

放射線とはどのようなものなのかを知り、自分の身の回りには放射線があることや放射線の性質について理解することができる。

(4) 本時で大切にすること【かかわり】とその手立て（本校現職教育とのかかわり）

【導入「こと」東日本大震災との関わり】

- ◆ 東日本大震災や原子力発電所の事故について話すことで、放射線という言葉に触れ、本時のめあてをつかむ。

【展開「もの」絵本との関わり】

- ◆ コミュタン福島の先生による放射線に関する絵本の読み聞かせによって、放射線に関する基礎的な内容を理解する。

【展開「ひと」ゲストティーチャーとの関わり】

- ◆ コミュタン福島の先生の説明や実験により放射線が身の周りであることを確かめ、自分の身の回りには放射線があることに気付く。

【終末「もの」ワークシートとの関わり】

- ◆ 放射線についてわかったことを手紙形式のワークシートに書くことで、本時の学習内容をまとめ、理解を深める。
- ◆ 未来に向けての生き方について、それぞれの思いを共有し、希望をもって生きていこうとする意欲を高める。

(5) 授業の実際

段階	学習活動・内容	時間	○指導上の経過 ◆本時のかかわりの視点 ☆評価
つ か む	<p>1 本時のめあてをつかむ。</p> <p>(1)「放射線」という言葉を知る。</p> <p>(2)本時のめあてをつかむ。</p> <div data-bbox="280 528 647 577" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">ほうしゃせんってなあに？</div> 	5 (分)	<p>◆ 子どもたちが経験していない、東日本大震災（地震・津波）やそれによる原子力発電所の事故について、絵を見せながら説明をして、「放射性物質」、「放射線」という言葉を知らせた。</p> <p style="text-align: center;">【「こと」東日本大震災とのかかわり】</p> <p>○ 放射線について知っていることをペアやグループで話し合わせ、子どもたちが、放射線について持っている知識やイメージを発表させた。子どもたちから出た様々な意見から、放射線とは何かという本時のめあてを提示した。</p>
展 開	<p>2 「放射線」とは何なのかを知る。</p> <p>(1) 放射線について絵本による説明を聞く。</p>  <p>(2) 絵本で知ったことを発表し合い、放射線について分かったことをまとめる。</p> 	15	<p>◆ 初めて放射線について触れる児童を対象に、コミュタン福島のゲストティーチャーが放射線について、絵本による説明を行った。放射線が自然の中にも存在することやその量、医療分野や農業分野などでの放射線の活用などについて、わかりやすく説明した。</p> <p style="text-align: center;">【「ひと」ゲストティーチャーとのかかわり】</p> <p>○ 放射線は無色透明で目に見えないこと、においもないこと、身近にあっても気付かないことなど、絵本から学んだことを確認した。</p> <div data-bbox="667 1525 1453 1581" style="border: 1px solid black; padding: 5px;">お話を聞いて、ほうしゃせんについて分かったことある？</div> <div data-bbox="762 1615 1401 1738" style="border: 1px solid black; padding: 5px;">見えない、におわない、感じない。ちきゅうやうちゅうにもある。</div> <div data-bbox="778 1827 1410 1973" style="border: 1px solid black; padding: 5px;">☆ 放射線が身のまわりにあることや、レントゲンなどに活用されていることなどを、理解することができた。 (発言・観察)</div>

段階	学習活動・内容	時間	○指導上の経過 ◆本時のかかわりの視点 ☆評価
展 開	<p>3 身の回りに放射線があることを知る。</p> <p>○ 自分の身の回りにあるものの放射線量を測る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> 塩・肥料・岩石（花崗岩） きざみ昆布・湯ノ花 </div>  	15	<p>○ 実験の前にどのような結果になりそうか予想することで、児童の意欲を高めた。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>◆ コミュタン福島のゲストティーチャーが指導して、児童自身に身近にあるものの放射線量を測る実験をさせ、放射線が身近にあることを捉えさせた。</p> <p>また、グループにゲストティーチャーが一人ずつ指導に入ることで、正しい測り方や結果について記録する支援を行った。</p> <p>【「ひと」ゲストティーチャーとのかかわり】</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>きざみ昆布からも放射線が出ているね。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>さあ、全部測ったね。どれが、放射線が多かったかな。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>湯ノ花が1番で、きざみ昆布が2番目に多かったよ。</p> </div>
ま と め	<p>4 本時のまとめをする。</p> <p>(1) ゲストティーチャーと学んだりしたことから分かったことをまとめる。</p>  <p>(2) 本時の学習でわかったことをワークシートに書く。</p> 	10	<p>○ ゲストティーチャーとの学習で学んだことを発表し合うことで、本時の学習内容をまとめ、理解を深めた。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>◆ 放射線についてわかったことを、お家の人に知らせる手紙形式のワークシートに書くことで、放射線について分かったことを自分なりにまとめた。</p> <p>【「もの」ワークシートとのかかわり】</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>ほうしゃさんのべんきょうをしたよ。しお、ひりょう、いし、きざみこんぶ、ゆのはなのほうしゃせんをはかったよ。はかったものぜんぶからほうしゃせんがでていたよ。ゆのはながいちばんだったよ。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>☆ 放射線についてわかったことを、家の人に知らせるというねらいをもって、どの児童も自分なりにまとめることができた。</p> <p style="text-align: right;">(ワークシート)</p> </div>

実践2 学級活動における実践（第5学年）

目標	放射線に関する正しい知識を身に付けるとともに、安全に気を付けて、前向きに生きる力を身に付けることができる。		
観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	放射線に関する基礎的・基本的な知識を理解することができる。	放射線に関する基礎的・基本的な知識を理解することができる。	放射線についてわかったことを、身近な人に伝えようとしている。

(1) 本時の授業テーマ

社会科、総合的な学習の時間との教科等横断的な学習や、「放射線等に関する指導資料」の活用、「小学生のための放射線副読本」に基づく情報カードを整理する活動を通して、放射線についての正しい知識を身に付けることができる授業

(2) 本時の題材名 「放射線の正しい知識を身に付けよう」

(3) 本時のねらい

これまでの学習で得た知識を基に、情報を整理し、より深く放射線について理解し、未来に向けての生き方について、自分の思いをまとめることができる。

(4) 本時で大切に【かかわり】とその手立て（本校現職教育とのかかわり）

【導入「こと」これまでの学びとのかかわり】

- ◆ これまでの総合的な学習の時間での放射線学習を写真を見ながら振り返ることで、これまでの学びを確認することができるようにし、めあて「放射線について学んだことを確かめよう。」につなげることができるようにする。

【展開「もの」情報カードとのかかわり】

- ◆ 放射線についてまとめた情報カードを整理する活動を通して、学習意欲を高めるとともに、新しい気付きがあるようにする。

【展開「ひと」ゲストティーチャーとのかかわり】

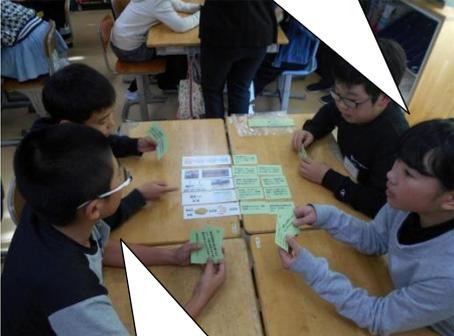
- ◆ 専門的知識をもつゲストティーチャーの方に指導を受けることで、学習意欲を高めるとともに、正しい知識を身に付けることができるようにする。

【展開・まとめ「ひと」友達とのかかわり】

- ◆ 友達と話し合いながら、情報整理の活動を行うことで、放射線について考える意欲を高めることができるようにする。
- ◆ 未来に向けての生き方について、それぞれの思いを共有し、希望をもって生きていこうとする意欲を高めることができるようにする。

(5) 授業の実際

段階	学習活動・内容	時間	○指導上の経過 ◆本時のかかわりの視点 ☆評価
つ か む	<p>1 本時の課題をつかむ。 (1) これまでの学習活動を振り返り、学びを想起する。</p>  <p>写真を見てみましょう。</p> <p>(2) めあてを確認する。</p> <p>放射線について学んだことを確認し、これからの生き方について考えよう。</p> <p>しっかりと確認して、これからどうしたらいいか、みんなで考えていきましょう。</p>	10 (分)	<p>○ 担任が、これまでの学びを、写真のスライドショーにより提示した。</p>  <p>あー！お米を育てて、稲刈りしたよね。</p> <p>田植え、稲刈り、太巻き作り、コミュニティ福島見学、はばたけ三春っ子</p> <p>◆ これまでの総合的な学習の時間での放射線学習を写真を見ながら振り返ることで、学びを確認することができた。また、最後のスライドに「今日は、これまでの学習を確認しよう。」というメッセージを入れたことと、プロジェクト名「放射線について学び、福島の未来を守ろう」を確認したことで、本時のめあて「放射線について学んだことを確認し、これからの生き方について考えよう。」につなげることができた。</p> <p>【「こと」これまでの学びとのかかわり】</p>
展 開	<p>2 放射線についての学びを整理する。 (1) 情報カードを組み合わせる。</p> 	25	<p>○ ゲストティーチャーを紹介し、情報カードのグループワークにつないだ。</p> <p>◆ ゲストティーチャーによる普段とは異なるグループワークに取り組むことで、学習意欲を高めることができた。</p> <p>【「ひと」ゲストティーチャーとのかかわり】</p> <p>○ 「小学生のための放射線副読本」の内容に基づく情報カードを、グループで話し合いをしながら組み合わせ、次々とカードを並べていく活動に取り組んだ。</p> <p>○ 「グループのみんなで協力しよう」と指示し、児童の意欲を高めた。</p> <p>○ うまく話し合えない児童の支援をするため、担任は、その児童がいるグループを中心に指導を行った。</p>

段階	学習活動・内容	時間	○指導上の経過 ◆本時のかかわりの視点 ☆評価
展 開	<p data-bbox="336 271 699 456">「身の回りの放射線」だから、このカードが組み合わせると思う！</p>  <p data-bbox="368 815 699 898">それでいいと思う。</p> <p data-bbox="296 958 651 1041">(2) 作った組み合わせを振り返る。</p>  <p data-bbox="336 1442 667 1630">「差別やいじめ」のカードは、このカードにも関連するのかな？</p> 		<div data-bbox="799 286 1409 629" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>◆ 総合的な学習の時間を中心に、これまでに学んできたことを基にして、放射線に関する情報カードを整理する活動に意欲的に取り組むことができた。また、これまでの学びの中にはなかった内容から、新しい気づきがあった。 【「もの」情報カードとのかかわり】</p> </div> <div data-bbox="799 680 1409 925" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>◆ 情報カードを置く際に、友達と話し合いながら、情報整理の活動を行うことで、意欲的に放射線についての知識を確かめ合ったり、考えたりすることができていた。 【「ひと」友達とのかかわり】</p> </div> <p data-bbox="775 981 1409 1205">○ 「小学生のための放射線副読本」に基づいて、自分たちが並べた情報カードを、振り返った。この活動により、これまでに学んだことと、「小学生のための放射線副読本」とを関連付けて確認することができた。</p> <p data-bbox="775 1218 1409 1585">○ 「小学生のための放射線副読本」の第2章で扱われている、福島第一原子力発電所の事故、それともなう風評被害や差別、いじめ等に関する内容のカードと、第1章の放射線の基礎的知識を扱ったカードとを関連付ける話し合いをした。この活動により、原子力災害等を乗り越えて次代の社会を形成することに向けた現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力の育成を図った。</p> <p data-bbox="775 1599 1409 1731">○ 「小学生のための放射線副読本」の第2章に関する内容のカードと、第1章の内容のカードとの関連付けについて、様々な意見が出てきた。</p> <div data-bbox="799 1787 1409 1935" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>☆ カードを並べるための対話を通して、これまでに学んできた放射線に関する知識を整理することができたか。 (観察)</p> </div>

段階	学習活動・内容	時間	○指導上の経過	◆本時のかかわりの視点	☆評価
まとめ	<p>3 本時のまとめをする。</p> <p>(1) 本時の学習のまとめをする。</p> <p>(2) 放射線について学んだことをこれからの生き方に、どのように生かしていきたいかを考え、発表する。</p>	10	<p>○ 情報カードで扱われていた「小学生のための放射線副読本」の内容を提示した。</p>	<p>○ 担任から、これまでの学びについて再度確認をし、多くの方々の支えにより学習を進めてきたことを確認した上で、ワークシートにこれからどのように生きていきたいかを自由に記述させた。</p>	<p>○ 机間指導を行い、書くことに困っている児童には、個別に声をかけて支援した。短い文章の児童もいたが、全員が記述することができた。</p>
					
	<p>書いたことを発表しよう。</p>		<p>学習したことをいろいろ人に伝えてほしい、いろいろ人にしてもらいたいから。 自分たちで福島県のイメージを考えたいです。</p>	<p>放射線をあひすぎでほしくないということや、放射線をおおせ先生やユッシー先生、かとう先生のように教える方になって福島の努力などを伝えたい。福島の農作物の風いっひがなくなつてほしい。</p>	
	 <p>3. これからのこと 放射線について、これまで学んだことを、これからの生き方に、どのように生かしていきたいですか。</p> <p>ま、福島の農作物は、食べていて、とてもおいしいので、その農作物が、ちゃんと売れるように、風評被害をへらす。東日本大震災で、いろいろな人が、ひなんしているから、その人たちに、も福島は、安全ですよ、って伝えていく。健康への気はよさを考えて、放射線をあひすぎないようにする。</p>		<p>◆ 未来に向けての生き方について、それぞれの思いを発表し合い、共有したことで、希望をもって生きていこうとする意欲を高めることができた。友達の発表を聞き、自分のワークシートに書き足す児童も見られた。一人一人がこれまでの学びから感じ取り、分かったことを基にして、これからの生き方について考えることができていた。 【「ひと」友達とのかかわり】</p>	<p>☆ 放射線に関する基礎的・基本的知識をもとに、郷土である福島を愛し、前向きに生きていこうとしているか。 (ワークシート・発表・観察)</p>	

第5学年 総合的な学習の時間「みんなの福島を守ろう！」の学習



Ⅲ 成果と課題について

- 1 成果
- 放射線教育を教育課程に位置付け、各教科との関連において実践することを続けてきたことにより、各学年において放射線に関する知識に触れ、持続性を持って行うべきものであるという教職員の意識がさらに深まってきた。
 - 町内にあるコミュタン福島を活用したことをはじめとして、関係諸機関との緊密な連携により、本校が目指す放射線教育を着実に実現できた。第1学年においては、初めて放射線について学んだが、震災後世代の児童に適した授業が実践できた。また、第5学年においては、大学教員や専門家等を含めた関係機関からの協力を得ることで、児童の意欲が引き出されたとともに理解も深まった。その学びをもとに、「小学生のための放射線副読本」、「放射線等に関する指導資料」といった国や県の資料と関連付けることで、確実な知識の定着も図られた。
- 2 課題
- 学級活動における放射線教育の学習内容は、教育課程に基づき実践していくが、授業者は各学年年間2時間以上、6年間で12時間以上であることを意識するとともに、中学校における放射線教育の内容を念頭に、自校の実態を十分に考慮して実践していく必要があった。